NHO National Hospital Organization 国立病院機構通信 PRESS

スペシャリストの素顔

臨床工学技士（CE）

■西別府病院

主任臨床工学技士　阿部聖司さん

私たちの体内で行われている呼吸や循環、代謝などを手助けするのが生命維持管理装置。よく知られているものとしては、血液を浄化する人工透析装置や心臓を止めて手術をする際の人工心肺装置、呼吸を補助する人工呼吸器などがあります。その保守点検、操作を担っているのが臨床工学技士（CE:Clinical Engineer）です。今回、西別府病院阿部主任臨床工学技士にお話をうかがいました。

「西別府病院では主に神経・筋疾患の患者さんに対して在宅用の人工呼吸器を主に扱っています。急性期病院などのＩＣＵ（集中治療室）にある人工呼吸器は、モニターにいろいろなデータが出てくるので一目見れば状態が分かります。しかし、在宅用の人工呼吸器は小さく作られていて、使っている患者さんから得られるデータが少ないんです。したがってデータを読みながら患者さんの体の状態を一緒に見ていく必要があります」

最近は人工呼吸器の性能も上がってきました。とはいえプログラムの異常など、万が一にもトラブルが起きてはいけないので気が抜けない仕事です。

「神経・筋疾患は、呼吸をするための筋肉が動かなかったり、そのための脳からの指令が行かなかったりする病気です。そのため、単に酸素を送ればいいというわけではなく、体に送気する量やタイミングなど、普通に呼吸するのと変わらない感じで肺に酸素を送ることを常に考えなければいけません」

慢性期の神経・筋疾患の呼吸療法に携わるＣＥは、ここ５、６年で着実に増えてきました。

「私の入職した６年前は、慢性期病院で神経・筋疾患の施設にいる技士が少なくて、本当に手探りの状態でした。呼吸器の基礎を一から勉強し、東京、福岡など大都市で開かれているセミナー、専門の学会に参加して、そこで得た知識を慢性期用に応用しました。お手本がなくても積極的に動く性格でしたので、新しい知見や学会で情報交換した人達との意見などを積極的に取り入れて医師に提案してきました。こちらが提案した機械の設定で患者さんの呼吸が明らかに楽になったのを見ると、『良かったなぁ』とやりがいを感じますね。医師やリハビリテーションの各スタッフ、看護師と連携して、いかにして患者さんを快適にしてあげられるかを常に考えています」

医療機器の高度化に伴い、ＣＥの果たす役割の重要性は今後も高まっていくと考えられます。「そうした社会の要請に率先して応えていきたい」と目を輝かせます。

（西別府病院＝大分県別府市）